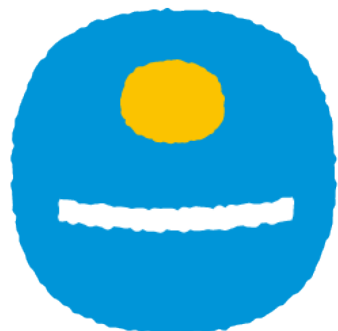


上山みらいの学校づくり 意見交換会



ひ
た
り
あ
ふ
れ
り
か
み
の
や
ま

上山市教育委員会

これまでの経緯①

少子化により、複式学級・小規模校が増加

▶子ども達の適切な教育環境の検討開始

H19.8月 上山市小・中学校将来構想検討委員会 設置

H20.3月 「上山市立小・中学校将来構想」答申

学校の統合ありきではなく、子ども達にとって最善の教育環境とは何かを議論。検討過程で小規模校のデメリットを抜本的に解消することには限界があり、これからの学校・学級規模のあり方と適正配置を検討する必要性に迫られ、児童・生徒の資質向上を目指す「魅力ある学校づくり」のための統廃合のあり方等の答申をいただいた。

これまでの経緯②

H21.11月 小・中学校統廃合実施計画（案）策定

教育委員会で魅力ある学校づくりのため、中学校区単位での小・中学校統廃合案を示したものの。本計画案に基づき、中学校区毎に統合検討委員会が設置され検討を実施

＜統廃合の変遷＞

H23.3月 中山小学校を南小学校に統合

H25.3月 本庄、東、宮生小を統合。宮川小学校 4 月新設

H27.3月 西郷第二小学校を南小学校に統合

R4.3月 西郷第一小学校を南小学校に統合

経緯の要点（H19～21）

- 1 魅力ある学校とは、学校本来の目的・役割である子ども達の「人間形成」と「学力の向上」を確実に達成できる学校
- 2 望ましい学級規模は、小学校 1 学年 2 ～ 3 学級以上
中学校 1 学年 3 学級以上
そのため当面、複式学級を早急に解消することが求められる。
- 3 統廃合に当たっては、子どもを中心に据えた将来展望に立ち保護者や地域住民の意向を十分聴きながら、具体的な方策案等を検討すると共に、地域にあった方策で取り組んでいく。

これから10・20年先の検討

H21年 小・中学校統廃合実施計画（案）に基づく
魅力ある学校づくりの方策から

15年経過

児童・生徒を取り巻く

環境は 大きく変化

みらいの学校構想検討委員会

R 6 .8月 「上山市みらいの学校構想」
を策定するために設置
検討委員会に諮問



委員15人
保護者代表
地域関係者
学識経験者

みらいの学校構想とは？

子どもたちが生きる

新時代・環境変化に対応

上山市の小・中学校の

将来のあり方を示すもの

諮問とは？

意見を求めること

諮問 1 教育内容・ソフト

未来に夢と志がもてる

魅力ある学校づくり

に必要なことは？

人間形成 地域との共創

学力向上 学習環境 部活動

学校・学年・学級の数・規模

諮問 2 学校施設・ハード

時代に対応した
教育環境に必要な整備は？

教育ICT・DX 防災対策
老朽化対策 ▶ 長寿命化・新設

みらいの学校づくり意見交換会

「みらいの学校構想」に
皆さんの声を反映したい
現状・変化に悲観せず
子どもがワクワクする学校づくり
のため意見をお願いします



現状・変化

子どもたちが生きていく時代

1 少子高齢化・人口減少

2 VUCA時代

3 新時代の学校施設

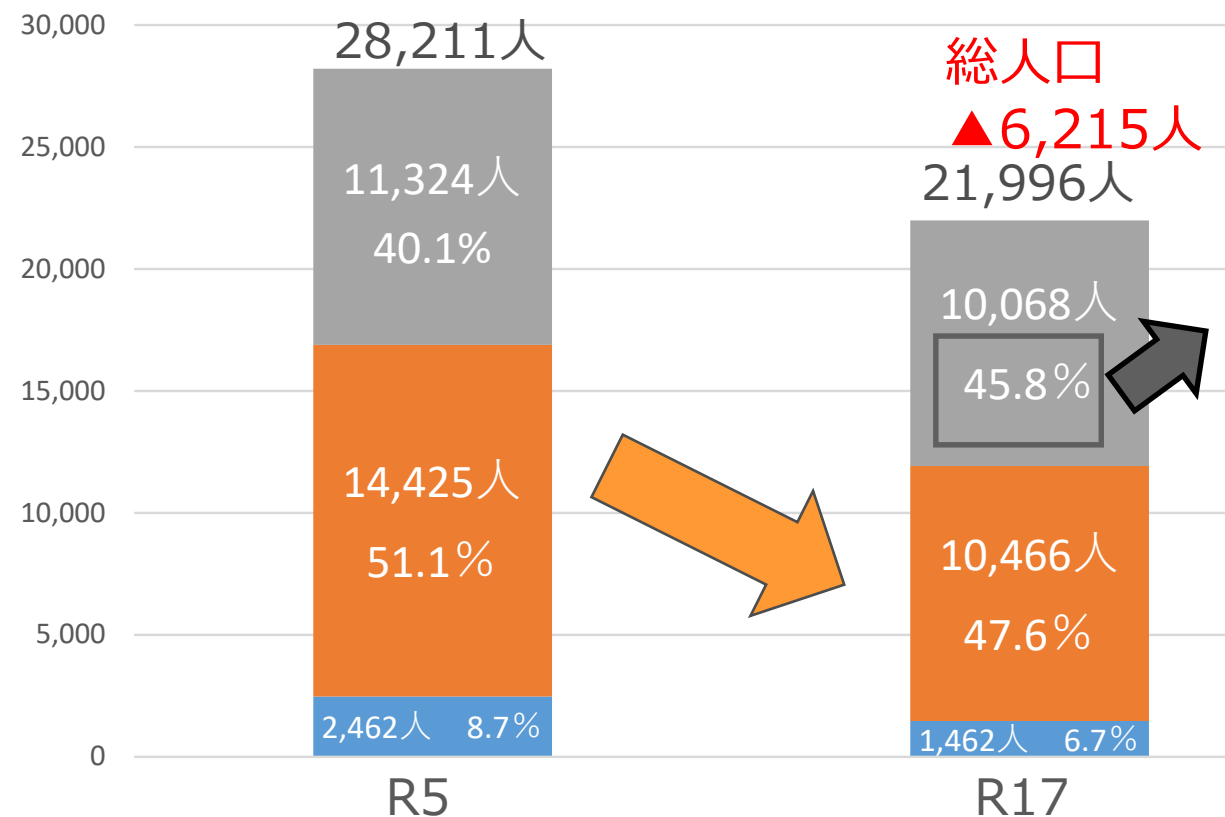
1 少子高齢化 人口減少

人口減少 高齢化

生産年齢人口 ▶ 大幅減少 高齢化率 ▶ 上昇

子どもが大人になる頃、少ない働き手で、子ども・高齢者を支えられる生産能力向上のため教育・子どもへの投資が急務！

▶ 持続可能社会の
創り手育成！



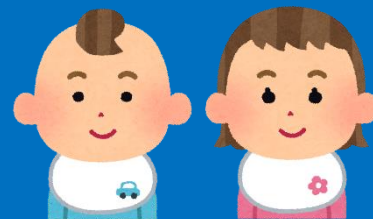
■ 老年人口(65歳以上)
▲ 1,256人

■ 生産年齢人口(15～64歳)
▲ 3,959人

■ 年少人口(14歳以下)
▲ 1,000人

少子化

R5出生数 90人

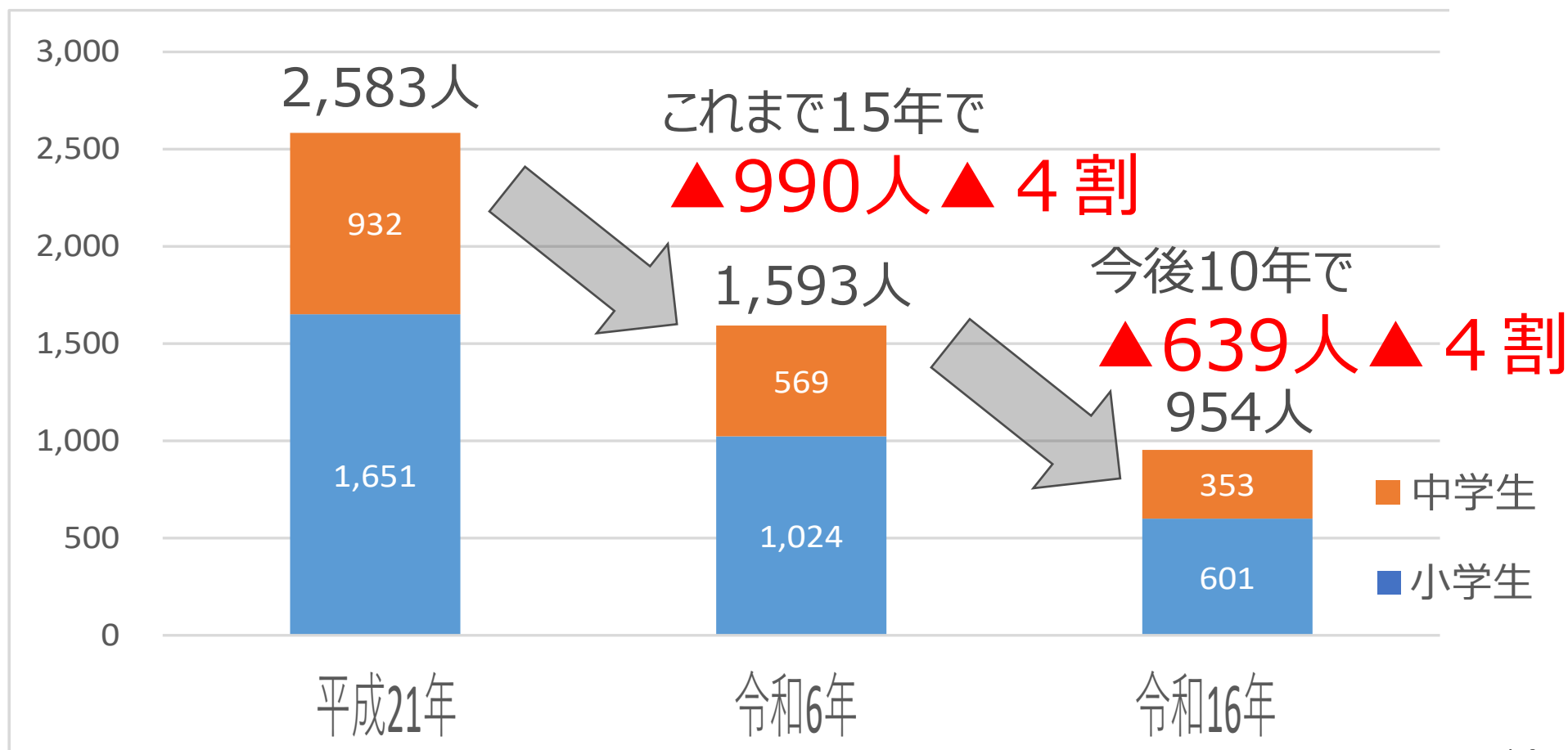


1つの学校なら... 1学年 3クラス

中学校なら ... 教科担任の
確保困難



小・中学生の減少



小・中学生減少の影響

学 校 ▶ 小規模化

学 級 ▶ 複式発生

部活動 ▶ 選択困難・活動困難

＜懸念されること＞

- ・多様な学び・考え方の広がり
- ・切磋琢磨できる環境
- ・人間関係、相互評価の固定化
- ・集団生活への適応
- ・選択肢のある集団活動
- ・教科担任の確保
- ・複式学級 ▶ 教育の質の確保、担任負担増

小学生 10年後推計（学校別）

	令和6年	令和16年（10年後）
上山小学校	336人	236人（▲100人 3割）学年1～2クラス
南小学校	537人	301人（▲236人 4割）学年2クラス
宮川小学校	91人	40人（▲51人 6割）R13 複式2学級・4学年 学年10人未満
中川小学校	60人	24人（▲36人 6割）R12 完全複式・6学年 学年10人未満
全 体	1,024人	601人（▲423人 4割）

上小・南小も
1クラスの時代

中学生 10年後推計（学校別）

	令和6年	令和16年（10年後）
南中学校	295人	178人（▲117人 4割）
北中学校	235人	150人（▲85人 4割）
宮川中学校	39人	25人（▲14人 4割）
全 体	569人	353人（▲216人 4割）

R16

全学年2クラス

R18

学年1クラス発生

学年10人未満

教科担任の
確保困難!!

2 VUCA時代

VUCA 時代とは

加速度的な社会変化

予測困難な時代

未来へ大きな変化①

デジタル化 Society5.0



AI・ロボットが日常化 膨大な情報に繋がる超スマート社会

グローバル化

2048年（24年後）生産年齢人口の1割が 外国人

ダイバーシティ



出典：国立社会保障・人口問題研究所

国籍 性別 文化など 様々な多様性を認め合う時代

未来へ大きな変化②

インクルーシブ



異なる背景・特性を持つ人々が平等な機会を得て
積極的に参加できる、誰ひとり取り残さない共生社会実現

子どもが抱える困難（いじめ、障がい、不登校 等）
多様化・複雑化

▶ 障がい・困難に関わらず
平等な教育機会の確保



不登校児童・生徒への支援
県内初 令和7年4月開校予定
学びの多様化学校 上山きらい学園

子どもが大人になる将来

- 国際性・多様性を増した学校・職場・地域で
多様な他者との協働が当たり前の共生社会
- 少ない働き手で子ども・高齢者を支えられる
デジタル化を駆使した持続可能社会



令和の日本型教育 国 学習指導要領

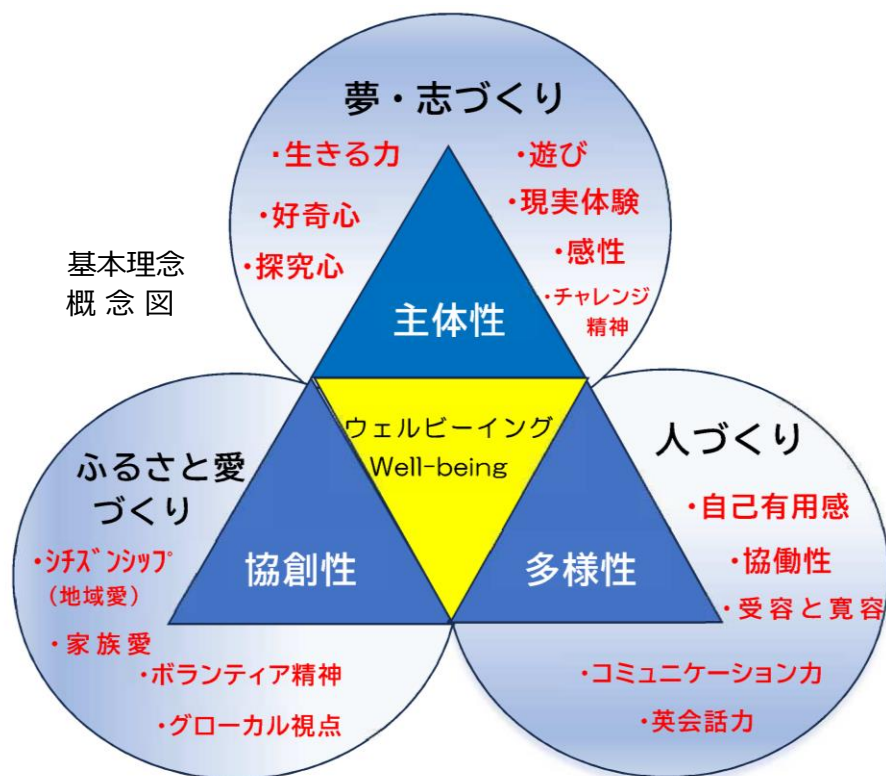
- 1 自分の良さや可能性を認識
- 2 あらゆる他者を価値のある存在として尊重
- 3 多様な人々と協働
- 4 様々な社会的変化を乗り越える
- 5 豊かな人生を切り拓く
- 6 持続可能な社会の創り手になる

上山市教育振興基本計画

基本理念

ふるさとを愛し 夢と志をもち 共に未来を拓く人づくり

基本理念
概念図



ウェルビーイング

互いに認め合い

みんなが活躍できる

共生社会の一員として

自分の幸せと共に

周りの人たちの幸せを

創れる心豊かな人材

ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念

まとめ 1

新時代に求められる人材像
(少子高齢化・人口減少・VUCAの時代)

共生社会 (多様性・国際性等) の中で
自他を認め、幸せを創出し
変化を乗り越えられる逞しさ

3 新時代の 学校施設

学校の老朽化

耐震化・必要な整備は実施しているものの

老朽化が課題

上山小学校	築10年
南小学校	築46年
宮川小学校	築43年
中川小学校	築31年
南中学校	築64年
宮川中学校	築65年
北中学校	築52年

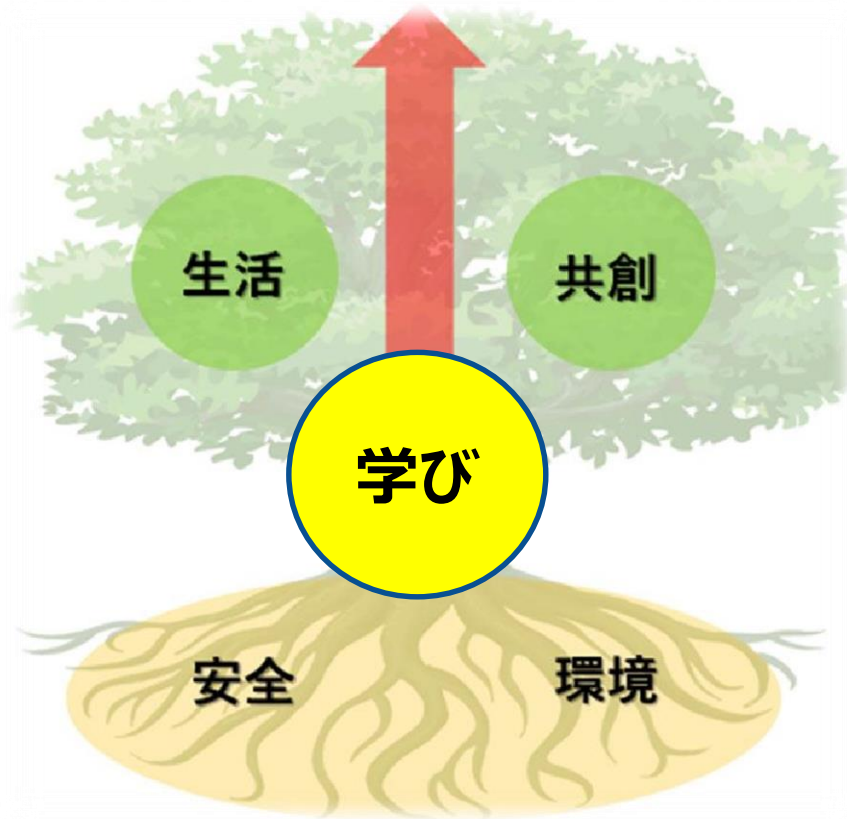


新時代の学校 目指す姿

豊かさ「枝葉」

中心「幹」

土台「根」



出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する
学校施設のあり方について」最終報告

全ての子どもの可能性を引き出す
個別最適・協働的な学びの場

中心・幹

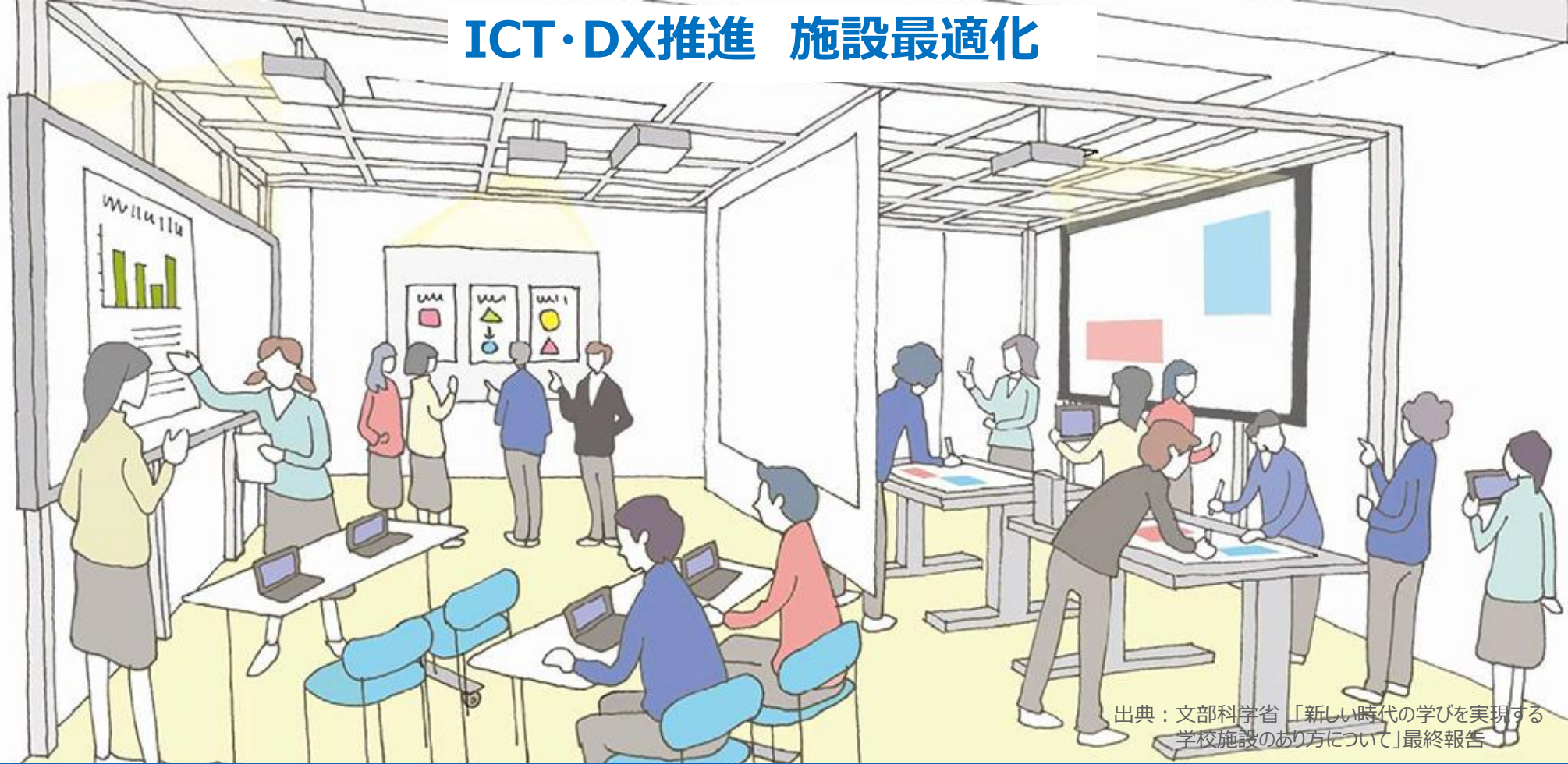


個別最適・協働的な学び 実現方法

多様性に富んだ子ども達

ICT・DX推進

施設最適化



出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する
学校施設のあり方について」最終報告

ゆとりある教室環境 フルクラウドネット環境
大型・壁面スクリーン プロジェクター 可動式仕切り
多様な学習活動への柔軟な対応
特別支援教育の充実・教員の働き方改革

生命を守り抜く安全・安心な教育環境

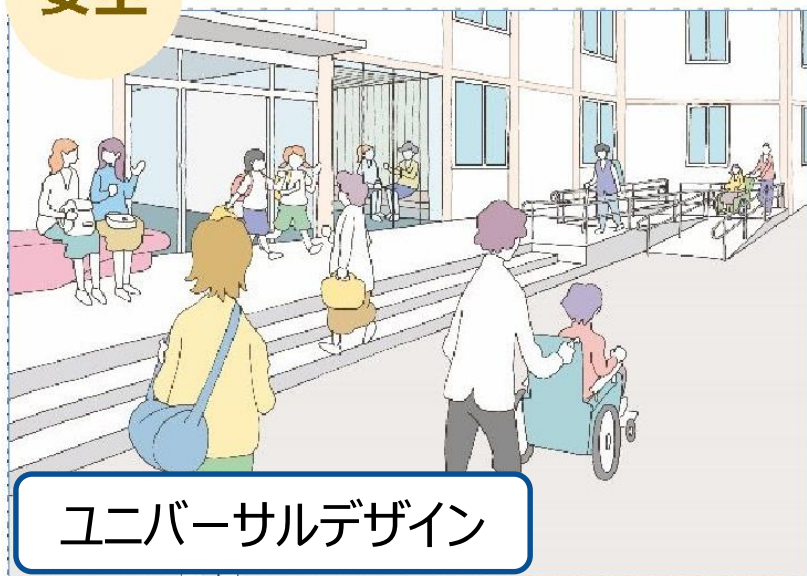
老朽化対策

気候変動

震災・防災拠点

持続可能・脱炭素社会

安全



環境

再生可能・省エネルギー



地域との新たな共創空間

共創

学校だけでなく、地域・社会と連携・協働して
子どもを育む新たな仕組み



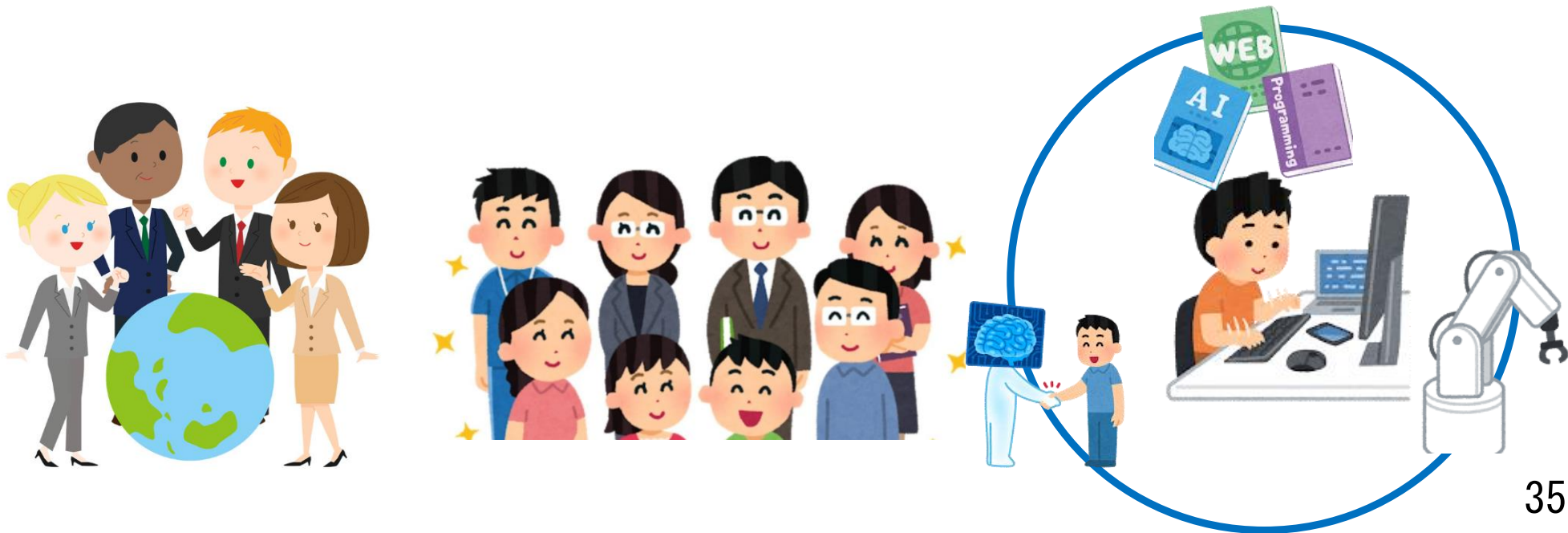
学校を子どもだけ
でなく市民全員で
利活用

▼
ジブンごと化
全ての大人が
学校を考える

学校施設の共用化 部活動の地域クラブ移行

まとめ 2

未来を拓く人材を育てる
市民全員が活用できる学校にするため
子ども・教育の場への投資が重要



意見交換

教育・学校について

- 1 現在どのように感じていますか？
- 2 将来どうあって欲しいですか？

キーワード

豊かな人間形成 地域との共創
学力向上 学習環境 部活動
学校・学年・学級の数・規模
教育ICT 市民全員が利用 防災
老朽化対策 長寿命化・新設